

3 北から来た恋人

わたしの恋人は やさしい南の国のひと
愛にあふれて 四月と五月の日々
小さなささやきも うけとめて
「ノー」と言わないひとだった

わたしの悲しみによりそって 5
楽しさはわかちあい
髪いっぽんの違いもなくて
イエスもノーも わたしと同じ

婚礼の日がやってきた 側廊は花と光に 10
みちあふれているのに
わたしの心は揺れていた
「もう遅い いまさらノーと言えないわ」ー

花婿の誓いの言葉に わたしも続き
「イエス」と言おうとしたときに 15
光る身廊の奥から争う気配がして
響きわたった 「ノー」という声が。

ブライドメイドも花婿も 息をのんで立ちすくむ
わたしは追いつめられて 顔を上げ
「いったいどなた、わたしのイエスを
ノーとおっしゃりさえぎるなんて」 20

それは北からやってきた たくましい男
かがやく巻き毛 灰いろの危険な瞳
「イエスはとっておけ 別の機会に。
そうすれば俺はノーと言いはしない」

男は力強い白い腕でわたしを抱え 25
馬に乗せて教会から連れさった
険しい岩山を越え 沼地をぬけて 危険な崖を駆けおりた
イエスカノーかも わたしに聞かずに。

こうして彼に 書物と鐘で留めおかれ
愛の鎖でつながれて わたしはいま
ノーという気持ちも 気力も
意志も 願ひもない。

30

(滝口智子訳)